

令和5年度第1回 感染症発生動向調査部会

令和5年4月19日

月番：加藤 達雄（感染症全般）、石山 俊次（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2023年第9週～13週・3月）

<全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 結核は30例（結核患者20例、潜在性結核感染症10例）の報告があり、今年度の累計では前年比92.2%（結核患者100%、潜在性結核感染症72.2%）であった。
- ・ A型肝炎1例、E型肝炎1例の報告があった。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症は、75歳以上の高齢者の4例の報告があった。

（STI）

- ・ 後天性免疫不全症候群は40代男性AIDS1例の発生が報告され、本年2例目となった。
- ・ 梅毒は早期顕症12例が報告された。梅毒の本年累計は26例で、前年同期累計（20例）、2019年同期累計（17例）に比べて増加している。男性17例中9例（52.9%）に6か月以内の風俗利用歴があった。先天梅毒はなかったが、0～9歳早期顕症2期の男児1例が報告されている。全国的には、本年累計3,480例で、このペースで増加すると年間14,000例程度となり、昨年の感染者数（12,966例）を上回り、1999年以降の最多記録を更新すると予想される。

<定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ インフルエンザは、大きな流行とならなかったが、9週以降に2019年と比較して多く発生が続いている。
- ・ 感染性胃腸炎は、前年比164.4%、対2019年比148.2%と例年より多く報告された。
- ・ 突発性発しん、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告数は、昨年より増加している。

（STI）

- ・ 女性の性器クラミジア感染症が増加しており、18例中14例（78%）が20代であった。性器ヘルペス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症に大きな変化はなかった。

2 検討すべき課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症の報告が、5月8日以降定点と岐阜県リアルタイムサーベイランスに移行することについて

<事務局から>

- ・ 今シーズンのインフルエンザの流行について（継続）
- ・ 梅毒の増加傾向について

3 情報提供すべき事項

- ・ サル痘の報告が 2023 年 4 月 13 日時点で 109 例の患者等が報告されており、9 週以降急増している。
- ・ 小児の原因不明の急性肝炎は、2023 年 2 月 16 日までに 156 例報告された、肝移植を要した症例が 3 例報告され、死亡例は 1 例報告された。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方 第 4 版（日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会ワクチン WG/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会）

➡成人を対象とした沈降 15 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV15：バクニューバンス[®]）が販売承認されたことを受け、「考え方」第 4 版を発表＝PCV13 と PCV15 は同等と考えられる

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 新型コロナが 5 類感染症に変更された後の発生動向の把握体制と公表について
- ・ 組換え沈降 9 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチンの使用可能に伴う関係通知について
- ・ サル痘に関する情報提供について
- ・ 鳥インフルエンザ発生状況について
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の推移について

<検討結果>